

小杉町は3月議会で合併協議会を離脱決定か!?

射水地区合併協議会で明らかになった

小杉町の合併論議“七つのまちがい”

ホントに
それでいいの?

其の壱：合併するとラポール、図書館は廃止?

存続します!

- ラポール、図書館、総合体育センターなど公共施設は“射水市”に引き継がれます。
- 合併すれば、公共施設のあり方について様々な観点から検討することができ、今まで以上に有効に活用することが可能になるでしょう。

⇒ 合併しないほうが、施設の維持管理は重い負担となります。

其の貳：合併すると小杉町の行政が後退?

前進します!

- 「子どもの権利に関する条例」や「首長等倫理条例」など小杉町が取り組んできた先進的な条例は、その趣旨が尊重され、新市で制定されます。
- 保育料が引き下げられるほか、重度障害者の医療助成など小杉町が単独で実施してきた施策は新市に引き継がれ、福祉や教育の分野で後退することはありません。

⇒ 射水合併協議会では、小杉町の施策や主張がほとんど認められています。

其の参：小杉町は単独でも大丈夫?

間違いです!!

- 小杉町単独ですべての事務を処理できる時代ではありません。
 - ・ ①介護保険、②ゴミ処理、③上水道、④下水道、⑤し尿処理など多くの事務を、5市町村でつくる射水広域圏事務組合で共同処理しています。
 - ・ 現在、①射水消防組合（射水郡4町村）と新湊市消防、②いみず野農協と新湊市農協、③射水JCと新湊JCなど、様々な分野での統合・合併が進められています。
- 財政的にも、合併した方が有利です。
 - ・ 小杉町単独の場合、平成26年度まで毎年度平均約10億円の赤字が見込まれ、住民サービスの抑制と負担の増加など暮らしの後退は避けられません。

⇒ 小杉町“役場”だけが非効率なまま残されて良いわけがありません。

其の肆：地方交付税は合併しない方が得?

合併しないと負担が激増!

- 今後、国の厳しい財政状況を背景に、合併するしないにかかわらず交付税は削減されていきます。交付税が減ってもきっちり仕事ができるような体力をつけなければなりません。
- そもそも地方交付税の原資は、国に納めた税金です。
 - ・ 地方交付税とは、一言でいうと、市町村がいろんな仕事をする際、市町村の税金だけでは足りない分を国が補填する制度です。合併すると、効率的な行財政運営ができるため、必要でなくなった分の交付税が減る場合もあります。しかし、合併後10年間は合併しなかったものとして毎年計算した額が保障されることから、その分のお金が余り福祉政策等、別事業に使えます。それに加え11～15年後の5年間は減少額が緩和されます。

⇒ 「交付税が減るから反対!」と主張する人は、制度をもっと理解すべきです。

其の五：合併協議会の中で小杉町は特別？

平等・対等な立場です！

- 大変残念なことに、ほとんど全ての項目で小杉町の意見が通っているにもかかわらず、一部の小杉町合併慎重派議員の『小杉町と他の市町村とで温度差がある』、『小杉の住民に対する配慮を』、『下村には配慮する必要はない』『資料が悪い』という発言などから、他市町村の小杉町に対する不信感が広がっています。（合併協議会を実際に見てみてください）
- 思い出してください。射水の合併協議会は、「住民発議」により誕生した県内唯一の合併協議会です。合併するかどうかの最終判断は、私たち住民がするべきではないでしょうか。

⇒ 信頼関係を損なわないよう、もっと建設的に議論しましょう。

其の六：合併の判断は議会が決める？

住民の判断はどこへ？！

- 新聞では、合併するか単独かを3月議会で判断するとありましたが、合併協議会への参加自体を住民投票で問うた、住民自治を理念とする小杉町のこれまでの方針とは一致しません。
- 現在の議員は合併問題が持ち上がってから選挙されたので、議会として民意を反映できるという意見は、そもそも当時合併問題を争点にして選挙した議員がほとんどいないという事実を見落としています。
- 平成14年8月に小杉町で行われた、精度が高いと言われているアンケート結果でも、7割近くの小杉町住民が合併そのものに賛成でした。単独という選択肢はあり得ないはずですよ。

⇒ 最終的な判断は、住民投票という手段もあるのでは？

不可能です！

其の七：射水郡だけの合併ではダメなの？

意味がありません！

- 総務省によると10万人規模の自治体の行政効率性が最もよいとされています。射水郡と新湊市が合併すれば、面積はわずか109km²。険しい山や急流河川もなく災害の少ない非常に住み良い地域です。このコンパクトで地形的に恵まれた地域に9万4千人の人口を有する、人口密度で県内一、人口では富山、高岡に次いで3番目、北陸3県では金沢、福井、小松などに次いで6番目の市になります。5市町村の合併により、県内や北陸地方だけでなく、全国的にも存在感のある市として自立していくことが可能です。5市町村合併だからこそ合併による効果が大きくなるのです。「文化が違う」「新湊市が嫌い」などという声を聞きますが、文化は融合して発展します。又、合併という将来のまちづくりを考える場合は、当然好き嫌いのみで判断するような問題ではありません。
- 合併には相手先が必要です。小杉町を除く4市町村は射水広域圏5市町村での合併を望んでいます。一部の小杉町合併慎重派議員が主張する、大門・下村との2町1村の合併など不可能な話です。また、そのような選択は射水広域圏を真二つにし、いたずらに混乱と対立を生むだけです。そのことが住民にとって後世まで、どれだけ負の財産となることか。これまで続いてきた広域圏事業も（ごみ処理・上下水道・斎場・介護保険等）実行不可能になる恐れもあります。これはまさに住民不在の選択であり、絶対避けなければいけません。
- 新湊市は「借金が多い」（X→基盤整備の結果、償還のピークはここ1～2年）とか、「市民病院が負担」（X→単年度医業収入は黒字）など財政状態を誤解して問題にする人もいますが、平成14年度の税収は17.5億円（一人当たり3.1万円）も新湊市のほうが多く、財政力は小杉町より上です。合併協議会の出す公正中立な情報で、正しい理解を心掛けましょう。
- 合併はゴールではありません。新しいまちづくりのスタートです。地方分権時代に対応して、柔軟に行財政を行っていけるような体力をつけるためのものです。
子どもたちや孫たちにすばらしい地域を残していけるよう、今が考え時です。

⇒ 感情論でなく、将来のことを理性的に考えましょう。

村上助役

「射水郡での合併利点も」

4市町村と違う姿勢

十三日開かれた小杉町・村上町助役は「射水郡で、議合合併問題特別委で、」の合併こそ、住民に目が

行き届く行政が可能」と発言。新湊市を含めた射水広域圏五市町村での合併を指向する他の四市町村との姿勢の違いを示した。

広域圏での合併推進を訴える住民グループ「射水市を実現する会」が十二日までに町内で配布した「小杉町の合併論議・七つのまちがい」と題するちらしの内容について議員がただし、村上助役が「あくまでも私見」として見解を述べた。

ちらしでは、「同広域圏はコンパクトで地形的に恵まれた中に九万三千人規模の人口があり、合併効果は大きい」と主張している。

村上助役は「町が昨年行ったアンケートで、

射水郡での合併を望む住民の割合が最も高かった」と振り返り、「住民意思を最大限尊重する」という観点から、「射水郡内での合併は意味がない」とする主張には納得できない」と述べた。

住民投票の実施を求めた項目については、「現在の議員は合併問題に関心を持って当選してきた。住民投票をあえて行う必要があるのかと考えている」と話し、否定的な見方を示した。

「ちらしの中身は間違っていないか」とする議員の質問に対して、「合併にはよい点とリスクの両面を見るのが必要。感情的にならず、住民の幸せのために慎重に議論してほしい」と述べた。

土井小杉町長

合併問題 住民合意急ぐ

町議会特別委 集中審議で方向性

土井小杉町長は、十三日開かれた町議会合併問題特別委で、「（小杉町が態度を決めていない）現在の状態で、射水広域圏五市町村での合併を正

式決定する七、八月を迎えるのは、なにかと迷惑をかける可能性がある」と述べ、合併の是非に関する住民の合意形成を急ぐ考えを示した。

町議会では三十日まであと二回の特別委を開いて集中審議を行い、一定の方向性を打ち出す

方針。議会内では五市町村の枠組みに慎重な意見が強まっているとの見方がある一方、合併推進を訴える住民グループも動きを活発化させており、同広域圏での合併協議は一つのヤマ場を迎えている。

土井町長は、住民合意のポイントとして、▽精

神面を含めた快適な生活の保障▽周辺自治体との調和▽小杉町の自主性、主体性の存続▽固有の文化をふまえた将来展望などを掲げた。

特別委では、これまで同町議会が主張してきた

「新市議会の設置選挙は大選挙区制が望ましい」

とする意見を転換。「合併協で住民代表の委員全員が中選挙区制を推しており、議員選出が難しいとの懸念がある下村に配慮すべき」とし、全会一致で中選挙区制に賛同した。

区割りについては意見が分かれた。

財政の見直しなどを話し合った小杉町議会合併問題特別委 同町役場